

地歴公民 (地理総合・地理探究) 九州大学 文学部

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

論述式, 選択記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問は2問で, 選択記述式1問, 論述式6問 (200字×1, 150字×3, 100字×2) が出題された。論述式の合計字数は850字で, 昨年の1030字よりも減少したが, 地形図を用いた問題が含まれたため, 長文論述をまとめる知識や文章表現力だけでなく, スピードも要求される。

その他トピックス

地形図を用いた問題が初めて出題された。

<大問分析>

| 番号 | 出題形式 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|-------------------------|-----------------|--|-----|
| [1] | 論述式 (200字×1, 100字×2) | 愛媛県西条市の地形図と人口構造 | 愛媛県西条市を示した地理院地図を用いて, 大明神川の特徴, 集落周辺の土地利用の特徴について述べさせる論述問題が出題された。また, 2020年の西条市における人口構造の特徴について, 図表を用いて述べさせる論述問題が出題された。 | 標準 |
| [2] | 選択記述式, 論述式 (150字×3) | アフリカ地誌 | エチオピア, セネガル, ナイジェリア, マダガスカルにおける農産物輸出額上位5品目の表を用いた国名の選択記述式問題のほか, 南アフリカにおいてワイン生産が盛んとなっている背景について, 自然環境と歴史をふまえて述べさせる論述問題, サハラ以南アフリカにおいて多言語使用の状況が生まれた歴史的経緯について述べさせる論述問題, 中国がアフリカ諸国との政治・経済的な関係を強化している背景について述べさせる論述問題が出題された。 | 標準 |

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

教科書に記載されている地理事象について, 自然的要因や歴史的背景, 社会的背景も含めて正確に理解しておく必要がある。難問は少なく, 教科書をしっかりと学習し, 理解を深めておけば十分に解答できる。論述字数が長めだが, 多岐にわたる内容を問われるため, 論述すべきポイントをコンパクトにまとめる必要がある。出題の意図を正確に読み取る力と長めの文章を構成する知識と表現力を日頃から鍛えておきたい。